

平成 27 年度事業活動報告書 及び平成 28 年度事業計画



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

特定非営利活動法人

海外に子ども用車椅子を送る会

URL: www.kaigaiKurumaisu.org

NPO 10年間活動の検証と自己評価

当会は2004年に設立し、2006年にNPO法人化して10年が経過、これまでに22ヶ国5,281台の車椅子を恵まれない子ども達に届けることが出来ました。

これまで10年間の活動の成果とその評価をご報告します。

① 障害児のための自立支援と人権尊重をめざす地域社会に不可欠な車椅子

当会が提供する障害児用医療機器である車椅子を海外の肢体不自由の子どもが利用することで、自由に移動や外出ができることとなり、身体機能の座位保持の正常化、身体的精神的な健康の向上、生活環境の改善、通学・通院・職業訓練などの自立支援と社会参加が助長されるようになりました。さらに本人だけでなく、家族や介護者の介護の負担が軽減されました。

発展途上国では障害児の約80%が医療施設の整っていない農村地域に住んでおり多くの障害児は家の中に置き去りにされています。車椅子を利用することによって容易に屋外に出られ地域の人と交流でき環境に適応できるようになりました。それによって地域社会全体が障害者の人権を認め、健常者と平等に自立できるように支える社会を実現するために車椅子が必要不可欠なツールであることが認識されました。

② 地域ぐるみの障害者支援に対する社会開発へインパクトをあたえる包括的活動

当会は地域の限定なく個人別に対応をして単に車椅子を寄贈するのではなく、各国でCBR（地域で根ざした包括的なリハビリ活動）を実践している受入団体（例えば、ネパール・ポカラのCBRS、インドネシア・ジャワ中部のCBR-DTセンター、エチオピアのジマ・バハルダール州のチェシャ財団活動拠点等）と連携して、障害児用車椅子を地域別にそれぞれのコミュニティに対して多数の車椅子を提供して、地域社会全体として障害の課題を解決していく活動にインパクトを与えるプロジェクトでおこなっています。

地域のソーシャルワーカーやボランティアが障害児の家庭を巡回訪問して、車椅子を活用して効果的なリハビリ治療や教育サービスも行えるように、当会は研修セミナーやノウハウの提供を受入団体と協力して支援しています。さらに地域の人々に対して障害への理解と啓発や障害予防のための教育を行い、地域ぐるみで包括的な社会開発ができるようになりました。

③ 持続的なプロジェクトのために車椅子の修理保守の技術指導とノウハウ提供

現地受入団体は車椅子の配布先（受益者）名簿を的確に管理して、車椅子が子どもの成長によって適合しなくなったら、次の車椅子を必要とする子どもに渡すリユースの仕組みを作って受益者をふやすことが出来るようになります。車椅子を大切に長く使うために、当会は現地で引渡時に地域の車椅子の管理責任者を対象にワークショップを開き、現地語（インドネシア語・ベトナム語・クメール語・英語など）の修理マニュアルを作成し技術指導と技術移転をして適切な保守修理ができるようになりました。

必要に応じて部品を日本から無償で送る仕組みを作り、迅速に修理ができるようになる仕組みを作りました。

また現地で保全のための技術移転や製造のノウハウなどの提供をしています。(マレーシア)

④ 草の根レベルで国際交流の推進と人材の育成

日本の障害児の保護者は不要になった車椅子を数年で廃棄することにモッタイナイと思いましたが、当会の活動を通じて海外で車椅子を必要とする障害児の保護者に届けて、リサイクルができるようになり、子どもが動ける喜びを海外の母親たちと分かちあえて、人と人との絆が強くなりました。その結果、日本の特別支援学校のPTAが当会の活動に賛同し、会員から定期的に収集し提供している活動の様子を現地の母親達に写真やメッセージで伝え、草の根レベルで心の交流を深めることが出来ています。

また整備活動を行う当会の例会には大学生や企業のボランティア、在日外国人(ベトナム・エチオピア・ネパール・マレーシア等)40~50人が参加し、国際交流が活発に行われています。また活動に参加したボーイスカウト(マレーシア・ベトナム)や大学生が現地での引渡式(タイ・マレーシア)に出席して、現地の障害者の家庭を訪問して交流が活発になり、国際交流の人材育成に寄与しています。当会の海外の障害児に対する人道支援プロジェクトを通じて、関係者が海外の福祉や社会開発について国際理解と交流を深めて、国際交流に積極的にかかわるようにもなりました。

⑤ モニタリングとプロジェクトの効果の評価実施で持続的発展性のあるプロジェクト

車椅子がどのように活用され、生活がどのように変化したか、適切に車椅子が維持管理されているか、そして地域社会にどのようなインパクトを与えているかを現地受入団体と管理名簿を確認し、年1回モニタリング調査を行って、持続的発展性のあるプロジェクトとしての検証と評価をしています。現地での当会の活動や車椅子の活用状況などは「活動レポート」として支援者に感謝の意を込めて定期的に報告しています。

当会のミッションとして

海外の子ども達に動く喜びと笑顔を届ける

資源循環型社会に向けて有効なリサイクル活用を図る

障害者の福祉と自立支援をして差別のない社会を作る

を基本として活動しています。

10年間の事業総括

i) 車椅子の収集事業

首都圏特別支援学校51校の内その60%に当たる30校のPTAが当会の活動の趣旨と使命に賛同いただき、年間行事として定期的に会員から不要になった車椅子を収集して提供いただいています。

当初は東京都内の学校が主な提供元で年間200台位でしたが、2013年から神奈川県や埼玉県の各学校のPTAを訪問して積極的に呼びかけた結果、数量が増えて年間平均600台になりました。さらに医療養育センターからや個人、車椅子製造業者の下取りなど合わせると年間600～700台の収集が定着してきました。

2014～2016年年平均の都県別割合・台数・学校数 年間平均台数 619台 1校平均 23台

東京都 42%	神奈川県 23%	埼玉県 26%	千葉
262台 12校	140台 8校	158台 5校	9%
1校平均 21.8台	1校平均 17.5台	1校平均 31.6台	59

2校 1校29.5

ii) 整備例会と国際交流活動

当会の例会では多くの高校生、大学生、ボランティアの方々が参加して、収集した車椅子の洗浄・整備・梱包を行っています。さらにベトナム、エチオピア、ネパールなど在外外国人も参加して、例会参加者との交流を通じて国際協力と親善に役に立っています。現在は毎月平均約40名が参加しています。

毎月例会でのボランティアによる整備作業と青少年自立援助センターでの委託整備作業と合わせて年間700台の整備体制ができています。

これまでにボランティアで整備活動に参加したボーイスカウトがマレーシアとベトナムに、大学生がタイとマレーシアに出かけて車椅子の贈呈式に参加し、車椅子を提供した家庭や施設を訪問して当会活動の使命と役割について現地で体験し理解を深めました。

iii) 車椅子の送付事業 (別表参照)

2004年10月にマレーシアに養護施設に16台を送ったことから始めましたが、2007年までの3年間は年間約200台、2008年から2015年まで年間平均500台から600台の規模になり、発足以来累計5,281台を57回コンテナ船便で22か国の恵まれない子ども達に届けました。

そのうち全体の37%に当たる1,930台は外務省の日本NGO連携無償資金協力支援事業で9カ国に対して実施しました。

寄付及び民間助成金による事業 63% 3,361台	日本NGO連携無償資金協力支援事業 37% 1,930台
------------------------------	---------------------------------

3回以上送った国は8カ国で全体の79%を占めており、当会の主要活動拠点であります。継続して送ることによって、補充と有効な地域の福祉社会開発に貢献しています。

iv) 資金の調達

当会は独自の事業で資金を確保していないために、会費と寄付それに各民間助成や公的助成金で事業を実施しています。

これまでの総収入累計金額は 7,260 万円でその内訳は

寄付金 3,113 万円 43%	民間助成金 1,507 万円 21%	公的助成金 2,321 万円 32%
---------------------	-----------------------	-----------------------

会費 252 万円 3%

- ・ 会費収入が少ない。
- ・ 不安定な寄付金、民間助成金は年度ごとの応募で不確実、公的助成とのバランス確保

① これからの課題

年間収集台数 600~700 台が定着し、例会で年間 350 台、委託整備で 350 台を整備できる体制が出来ましたが、各国毎のプロジェクトを進めていくためには安定した資金の確保が不可欠です。そのためには民間及び公的助成制度の活用をしていくことが課題です。

また都心から遠隔地である羽村市での保管、出荷やボランティア参加者の交通の便にも支障があり、参加人員の増加が余り期待できない問題もあります。

当会運営のマンパワーも不十分で、専従の担当者を雇用できず、限られた理事が分担して都度各国を訪問して確実なプロジェクトの検証と評価の実施をしながら、日常の事務も処理しているのが実情です。

そのために国内外の NGO と共同でプロジェクトを進めていくなど効率よく事業を行うことを模索しています。

平成 27 年度事業報告

1. 車椅子収集事業

不要になった車椅子は、首都圏の肢体不自由児の特別支援学校や養育施設など PTA の方々や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、23 学校・養育センターより 501 台の提供を受けました。年度末のずれもあり、昨年より 200 台減少しました。

年間平均 619 台です。都県別年度別の学校数と収集実績は次の通りです。

首都圏肢体不自由児特別支援学校からの収集台数

都県 (学校数)	2013 年		2014 年		2015 年	
東京都 (18)	12	288	13	284	11	214
神奈川県 (18)	8	145	10	162	6	114
埼玉県 (9)	4	143	6	183	5	147
千葉県 (6)	2	75	3	76	1	26
合計 51 校	26	651 台	32	705 台	23	501 台

多くの学校の PTA が年中行事として会員から車椅子を収集する活動が定着し、全体の半数以上の学校から毎年定期的に車椅子を提供していただいています。平成 27 年度車椅子メーカーの下取りと個人から持ち込みによる提供が年間約 150 台ありましたので、**収集台数の総数は 650 台**となりました。



多くの特別支援学校の PTA では年中行事として車椅子収集活動が定着している。

PTA 会員の皆さんからは、処分するのはモットイナイ、海外の子ども達に是非使ってほしい、との善意から大切に使われた車椅子が年々多く寄せられています。

当会は車椅子ばかりでなく、座位保持椅子、ウォーカー、補そう具なども収集しています。いずれも高価で海外で入手困難で、海外での要望もおおく、現地で物理療法士や専門家が適合する障がい児に活用され喜ばれています。

2. 車椅子の整備事業

当会の毎月行われる例会には大学生や高校生をはじめ支援いただいている企業の社員の方々が都心から遠方にもかかわらず、ボランティアとして毎月平均40名以上年間延べ480名のボランティアの方々が整備活動に参加されて、平成27年度は年間370台の整備。梱包をすることができました。

特に多くの在日ベトナム人の若者たちが参加してくれており、日本人との国際交流の場が広がっています。

また、9月にはフィリピン、1月にはマレーシアから当会パートナーの車椅子責任者が来訪され車椅子の活用状況や保守管理などについて意見交換をしました。

一方、福生市にあるNPO 青少年自立援助センターでも、当会役員で車椅子メーカーの指導を受けて年間340台の整備を行いました。

したがって平成27年度は毎月の例活動でボランティアによる**毎月例会活動で370台** それに自立援助センターで**340台を加えて合計710台の整備を完了**することが出来ました。



車椅子メーカーの方や技術者の指導で、安全性や耐久性を考慮して、タイヤやブレーキのチェックや梱包作業などをそれぞれが心を込めて作業をしています。昨年からはタイヤにゲルを注入して空気が抜けにくく、パンクも少なくなるような対策を試験的に試みています。

3. 車椅子発送事業



車椅子は丁寧に梱包されて、コンテナに積み込んで船便で各国へ発送しています。

平成 27 年度寄贈実績

(* 外務省 NGO 連携無償資金協力支援事業)

カンボジア*	6月	170台	全国リハビリテーションセンター等
ベトナム	6月	181台	ベトナム赤十字各支部
フィリピン	9月	90台	JVR 財団
エチオピア*	10月	160台	チェンヤ財団
フィリピン	12月	90台	JVR 財団
インドネシア*	3月	180台	CBR-DT センター
タイ	3月	90台	タイ障害者協会
合計		961台	(計画比 113% 昨年比 283%)



カンボジア・シェムリアップ



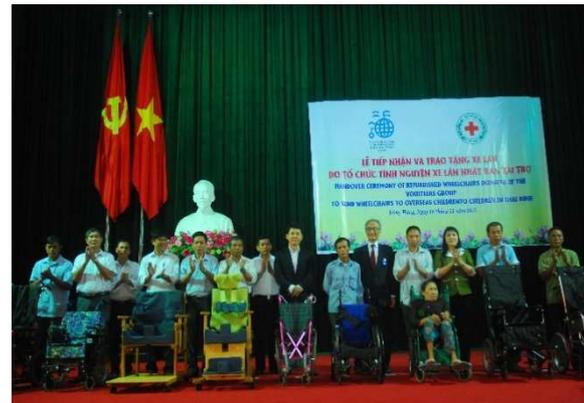
エチオピア・デシエ

昨年度は公的助成の申請手続きと成約などの作業が遅れたために大量の在庫を本年度に持ち越して支援国へ届けたために過去最大の出荷台数となりました。

当会は車椅子が現地に届いた後、受入団体と引渡式を行い、適合する子どもに車椅子を貸与し、子ども車椅子の使い方を指導し、各家庭を訪問して活用状況や視察して、配布状況を確認してプロジェクトの検証と評価を都度実施しています。



フィリピン・マニラ



ベトナム・タイピン省ドンファン県

贈呈式や現地訪問の様子など詳しくは当会 HP や「活動レポート」を参照ください。

4. 活動広報事業

当会が海外で子ども達に車椅子を届けて、養護施設や家庭を訪問して車椅子がどのように利用されているか、子どもたちや家族の生活どう変わったかなど私共の海外での活動と現地の様子をお伝えするとともに、海外の母親や子ども達の感謝の気持ちを具体的にお伝えするために、「活動報告レポート」を4回発行しました。

ウェブサイトも日本での活動をはじめ海外での事業の内容を充実し、タイムリーに広報するよう努めています。英語版も加えました。 <http://www.kaiгаikurumaisu.org>

5. 当会の財務状況

当会が運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集し、必要に応じてタイヤやブレーキを交換する整備をして、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1台平均約1万円を要します。

それらの費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者（個人及び団体）の寄付金それに民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

別表の収支報告書の通り、平成27年度は個人・企業からの寄付金や助成金をいただき、公的助成金も増えたために961台の寄贈の費用を賄うことが出来ました。

しかいながら、将来活動を継続していくために安定した資金の確保が最大の課題です。

どうか引き続きご支援ご協力をくださいますよう、心からお願い申し上げます。

平成 26～27 年度収支実績と平成 28 年度収支予算書

(単位 円)

	平成 26 年度 収支実績	平成 27 年度 収支実績	平成 28 年度 収支計画
収入の部			
前年度繰越	5,427,741	6,686,577	5,816,023
会費収入	286,000	346,000	350,000
公的助成金収入	1,803,964	6,434,230	4,370,000
民間助成金収入	1,776,438	3,268,296	2,500,000
寄付金収入	2,926,333	2,143,924	1,500,000
利息収入	609	627	0
雑収入	0	5	0
総収入額	12,221,085	18,879,659	14,536,023
支出の部			
1. 事業費			
車椅子収集事業費	747,259	1,050,243	900,000
車椅子整備事業費	1,746,890	3,313,868	3,000,000
車椅子発送事業費	2,585,899	7,991,560	4,600,000
活動広報事業費	218,697	359,110	250,000
事業費合計	5,298,745	12,714,781	8,750,000
2. 管理費			
事務消耗品費	25,750	7,660	
消耗品費	1,968	13,868	
水道光熱費	0	0	
旅費交通費	43,455	58,640	
支払手数料	19,002	35,725	
交際費	20,280	40,199	
支払保険料	6,680	6,650	
通信費	90,899	61,607	
複写費	182	2,545	
会議費	26,497	107,975	
諸会費	0	0	
雑費	1,050	13,986	
管理費合計	235,763	348,855	300,000
総支出額	5,534,508	13,063,636	9,050,000
次期繰越金	6,686,577	5,816,023	5,486,023

平成 28 年(2016 年)度事業活動計画書

NPO 海外に子ども用車椅子を送る会

1. 車椅子収集事業

首都圏特別支援学校 PTA の定期継続的な収集協力

2. 車椅子整備事業

例会参加者による確実な整備 年間 360 台

青少年自立援助センターの安定的整備 年間 460 台

3. 車椅子発送事業

インド	6 月	90 台	障害児支援 NGO
ミャンマー	6 月	90 台	リハビリ病院・ヤンゴン子ども病院
マレーシア	9 月	90 台	ALEPS 車椅子工場
ベトナム	10 月	170 台	ベトナム赤十字
カンボジア	12 月	90 台	リハビリセンター
ラオス	1 月	90 台	障害児支援協会
タイ	3 月	90 台	タイ障害者協会
合計		710 台	

4. 活動広報事業

- ・「活動レポート」の発行(年間 4 回)
タイムリーな当会の海外での活動報告
- ・ 当会ホームページの充実

5. 活動資金確保活動

- ・ 会員の増強
- ・ 民間助成・地域慈善団体等の申請・寄付金の増加を目指す

☞ 当会に対する問い合わせ・連絡先

森田 祐和 ☎090-7239-7264

info@kotobukiya.com

片野 智之 ☎090-2839-6319

katano-tmyk@kit.hi-ho.ne.jp